

男女共同参画都市宣言関連事業

男女共同参画都市宣言記念講演会

令和2年度は、男女共同参画都市宣言を記念する講演会を9月に開催しました。

日 時：9月26日（土）
10：00～12：00
会 場：福津市役所別館1階大ホール
参加者：38人
演 題：「私の歩いてきた道を振り返って」
内 容：地域活動における男女共同参画
講 師：吉廣 啓子さん
(公益財団法人 福岡県女性財団代表理事)

吉廣さんからは、これまでの人生を振り返られ、ご自身が経験されてきた内容に触れながらお話をいただきました。

高校教師をされていた時には、生徒の気持ちに寄り添って、指導をしてきた中で、生徒の発言で今まで当然だと思っていた常識は、実は違っていることに気づいたなどのエピソードをお話されました。



高校で英語を教えながら、もっと社会のために役立ちたいという思いから、朗読のボランティアを始められたとのこと。

朗読のボランティア活動では、聞き取りやすいように「大きく、はっきり、ゆっくり」と朗読されていたところ、障がいを持っている方から、「そんなにゆっくりでなくてもよいです。」や、「読みたいという気持ちは健常者の方と同じです。」と声をかけられた時に障がいを持っている方の気持ちに寄り添って当然だと思っていたことは、実は違っていることに気づいたなどのエピソードをお話されました。

学生時代はテストの評価において、男女による差別はなかったが、大学を卒業してからの就職活動において、男女差別があって、たいへん苦勞されたことなどが語られました。

就職活動をしていた当時は「女性の仕事は拭き掃除やお茶くみよ。」と採用担当者から言われ、女性が活躍できる職種が限られていて、どの職種を選択すればよいのか迷われたことなどが赤裸々に語られました。



講演の後半では、女性の政治への関わり方について語られました。

政治の分野を変えていくためには、国や県、市町村の女性議員が増えていくことが重要であると強調されました。

また、女性が議員になった場合の心構えとして、途中でめげることなく、覚悟を持ってやって欲しいといった注文もありました。

町長時代のことにも触れられ、「政治力はないけれども、誠実力があります。」、そして、講演会の最後に「誠実であること。そうすれば、伝わります。」と女性にエールを送られて、講演会は終了しました。

参加者からは、「ボランティア活動の話は参考になりました。」や「私も地域のため、活動を頑張りたいと思いました。」など、前向きな気持ちになれたという声が聞かれ、好評をいただきました。

「男女がともに歩む」一行詩 優秀作品

小・中・高校生の「男女がともに歩む」
一行詩優秀作品の表彰を、12月5日（土）
の人権講演会の冒頭に行いました。
（※学校名・学年は令和2年度現在）

【小学生の部】

- ^{もろずみ あんな} 両角 杏那さん（勝浦小学校5年）
男女決めつけもなく 自分が好きなもの
自分らしくするのが 一番大切
- ^{いとう しゅん} 伊藤 駿さん（上西郷小学校5年）
大切なのは 他人に合わせるのではなく
自分らしく生きること！！
- ^{いのうえ} 井上 もこさん（神興小学校4年）
ささえて、ささえられて
あなたが変われば 一歩近づく
- ^{とくなが なお} 徳永 響音さん（神興東小学校6年）
with コロナ with 男女
共に生きぬく 時代をつくろう
- ^{たのうえ} 田上 さくらさん（津屋崎小学校5年）
自分らしく 男女共に 歩んでく
- ^{しばさき あいり} 柴崎 愛莉さん（福間小学校4年）
男も女も関係ない。世界に1人しかいない
ぼく、わたしの自分らしさ。
- ^{ちよじま しゅう} 千代島 脩さん（福間南小学校5年）
ぼくはピンクが好き、ピンクは女の子の
色、そんなの決まってない。

【中学生の部】

- ^{いしばし わかな} 石橋 和奏さん（津屋崎中学校3年）
自分らしく輝くから たくさんの人に愛さ
れる 男も女も関係ない

- ^{かわぞえ まお} 川添 真央さん（津屋崎中学校3年）
母と私 料理作って共同作業、
父と兄 お皿洗って共同作業
- ^{まつもと はやた} 松本 隼拓さん（福間中学校3年）
家事するの おてつだいじゃなく
あたりまえ。
- ^{たかみかのこ} 高見 華乃子さん（福間中学校3年）
あたたかい 2人でつくった
おいしいごはん
- ^{すなもと あおい} 砂本 葵さん（福間東中学校3年）
男女が共に手を取り合い
歩んでいこう 未来への「光の道」
- ^{とくなが なな} 徳永 奈愛さん（福間東中学校3年）
「男らしい」ってなんだろう？ 「女らしい」
ってなんだろう？「自分らしい」が認め合える
「誇らしい」世界を作りたい！

【高校生の部】

- ^{なかやま たいが} 中山 大雅さん（光陵高校1年）
素敵じゃない？ 男女で手を取り合うその
世界
- ^{もうり じん} 毛利 仁さん（光陵高校1年）
Woman も man もどちらも human
- ^{なか ななみ} 中 菜々美さん（光陵高校2年）
「手伝うよ」 夫婦をつなぐ 相言葉
- ^{つじ たかと} 辻 天斗さん（水産高校1年）
共に創ろう 男女で支え合う
世界への階段を
- ^{なかお るい} 中尾 流伊さん（水産高校1年）
男女とも いろんな夢を 持てる時代
一緒に歩もう 明るい未来
- ^{なかがわ そら} 中川 大空さん（水産高校1年）
認め合おう 皆で無くす 男女差別

「男女がともに歩むまちづくり」

推進モデル

家庭、地域、職場、学校などで「男女がともに歩むまちづくり」を積極的に進めている市民や団体、事業者などを「推進モデル」として推奨しています。

推奨式を、12月5日（土）の人権講演会の冒頭に行いました。

◆三牧誠さん【パパラブズミー（父親の団体）の代表メンバー】

《推奨理由》

三牧誠さんは、発達障がいのある子どもがいるという背景から、障がいがある子どもたちが社会と共に歩める未来をつくることに取り組んでいます。

様々な活動に参加する中で「母親が話をする場が多いが、その輪に父親は入りにくい」という課題を感じ、「パパラブズミー」という団体を自ら立ち上げました。

この団体は、発達障がいに関係する人だけではなく「すべての人々が分け隔てなく尊重される社会の実現」を目指しています。

まず、身近な地域の中で同じような思いを持つ人と共感できる交流の輪を広げるために、柳井亮さん、松浦尚文さんとの3人で精力的に活動しています。

男女共同参画の推進に関しては、女性の活動が目立ちますが、「男女共同参画」の視点を持ち、男性側に必要な活動もあることを認識して、行動を起こす人がいることは、非常に意義があります。

市の男女共同参画の活動のモデルケースとして、今後も活躍が期待される三牧さんを、男女がともに歩むまちづくり推進モデルに推奨します。

